

弥彦村長選に柳田氏(71歳)

村長派と反村長派對立続く中で

村を割らない選挙に立って

大谷前村長の同級生に推されて 協力も得て

来年一月の弥彦村長選挙に、弥彦村弥彦、会社役員柳田友徳氏(71)が立候補する。平成二十七年の村長選のあと、村長派と反村長派が対立する状況に、同級生から推されて出馬を決断。選挙戦では同級生を中心に、大谷良孝前村長の後援会からも協力を受けるが、柳田氏は「村全体が仲良く手を取り合えたい。小林さんの全部がいいとも全部が悪いとも思わないし、反対派の人たちの全部がいいとも全部が悪いとも思わない。歩み寄るところがある」と決意を述べている。

任期満了に伴う弥彦村に未来電工(株)（東京都渋谷区）を設立。同社では防衛省などを取引先として自衛隊駐屯地のセキュリティ関係の仕事を請け負っているという。

柳田氏は昭和二十二年九月二十二日、弥彦村弥彦の衣料品販売業の家の四人きょうだいの三男に生まれた。長岡工業高校電気科を卒業し、昭和四十二年三月に国鉄(現J

R東日本)に就職。埼京線の信号通信システムの構築などに携わり、平成三年七月に退職した。ドイツ系の会社に五年間、勤務したのち、十年も村長選のしこりが残

りない選挙で立ってみたいか」と言われたという。その後、大谷前村長の側では候補擁立を見送ることが分かり、同級生の本多氏の紹介で、十月八日に大谷前村長と面談。大谷前村長の協力を得られることになり、翌九日には立候補のために弥彦村に住所を移した。

大谷前村長の協力を受けたのは立候補する以上は当選できるだけの得票を得るため。大谷前村長に対しては「傀儡(かいらい)をやらせるなら立ちません」とはっきり話したという。

今回の立候補について、柳田氏は「小林さんを支持した人の中でも、好ましく思っていない人は結構多い。小林さんが正しいか、正しくないか、

二か月前、同級生から打診されたのがきっかけ。柳田氏の自宅は埼玉

の村長選は三十六年ぶり

の選挙戦となり、小林村

が初当選した。その後

生から「今回は(村を)

間、勤務したのち、十年

も村長選のしこりが残

りない選挙で立って

みたいか」と言われた

という。その後、大谷

前村長の側では候補

擁立を見送ることが

分かり、同級生の本

多氏の紹介で、十月

八日に大谷前村長と



弥彦村長選に立候補する柳田友徳氏

スローガンは『みんなで手を取る 仲良し弥彦村』

今後の予定としては十月三十日に後援会を設立。選挙事務所は矢作地内の大鳥居下の空き店舗を借り、十一月一日に事

10月30日後援会設立

務所開きをする。選挙責任者は同級生で、前回の村長選では小林村長を支持した元総務課長の丸山徹さんが務める予定。公約は今後、後援会と検討することになるが、名刺に印刷したスローガンは「みんなで手を取る仲良し弥彦村」。柳田氏は「一部の人が行動するのでなく、みんなの村政。小林さんが最初に言ったノースайдを実現してもらいたい。約束を守らないなら、私が実現しましょう。それしかない」と意気込みを話している。